

明治大学大学院
国際日本学研究所
開設記念シンポジウム

バリアを越える イマジネーション

〈日時〉2012年12月15日(土) 13:00-16:10

〈会場〉明治大学駿河台キャンパス
リバティタワー1階 リバティホール

第1部: 基調講演 / 13:00-14:10

The『地球のステージ』

/ 桑山 紀彦 (心療内科医、NPO法人「地球のステージ」代表理事)



第2部: シンポジウム / 14:20-16:10

「バリアを越えるイマジネーション」

パネリスト講演

「わたしをなぞっていくと、あなたに届くの」 / 片山 真理(アーティスト)

「目で見るだけで気が済むのはなぜ？」 / 長棟 まお(詩人)

「禅とイマジネーション」 / 吉村 昇洋(禅僧、臨床心理士)

司会: 宮本 大人(国際日本学研究所・准教授)



入場
無料

予約
不要

お問い合わせ先 明治大学教務事務部 大学院事務室(国際日本学研究所担当)

TEL 03-5300-1536

WEB <http://www.meiji.ac/ggjs/>

バリアを越えるイマジネーション

価値観の多様化という言葉は、良い意味で受け取られることが多いようです。しかしそれは、世界を理解する仕方自体の多様化を意味します。同じ世界に生きていながら、隣人同士が同じ出来事をまるで違う仕方理解してしまうことがしばしば起こります。摩擦といさかいを生む障壁は、国と国の間に限らず、今やいたるところにあるように見えます。ではその障壁＝バリアは、どのように乗り越えることができるのでしょうか。

明治大学大学院国際日本学研究所は、日本の文化と社会について、国際的な視野から深く学び、問うために、2012年4月に開設されました。その最初のシンポジウムに、バリアを越えるイマジネーションというテーマを設定しました。多様な現場で活躍されるみなさんの、タフで柔軟に生きる知性の声が、響き合う場にお立ち会い下さい。

基調講演



桑山 紀彦

心療内科医
NPO法人「地球のステージ」代表理事

医師として、これまでタイ・カンボジア国境の難民キャンプを皮切りに、湾岸戦争後のイラク、ソマリア、旧ユーゴスラビア、カンボジア、東ティモールなどで医療救援活動を続けている。現在も年に数回、東ティモールやパレスチナで医療支援活動を展開している他、地震等の緊急医療救援、被災者の心のケアにも携わっている。2009年11月1日より宮城県名取市に「東北国際クリニック」を開設。2011年3月11日の東日本大震災で被災したものの、翌日から24時間の診療体制をひいて診療にあたってきた。現在も心療内科医として、日々「心のケア」に携わっている。

The「地球のステージ」

「地球のステージ」は、映像と音楽をシンクロさせた新しいタイプの公演です。それは「講演」ではなく「公演」と示すところからも、「ステージ」をその場でつくり出すものです。そこにはいくつかのキーワードがあります。

人は常に自分の人生において主人公です。世界中で、そして被災地で。その「主人公性」に焦点を当て、人を紡ぎ出す構成になっています。従って一つ目のキーワードは「主人公性」。

そして、人は自分の人生を物語として創り上げていく力を持っています。誰もが自分の人生という物語を生きており、聖書でさえイエス・キリストという一人の人物の言葉によって綴られた物語です。従って、二つ目のキーワードは「物語性」。

紛争、災害、貧困など様々な困難に出遭ってもなお、人はその人生において主人公であり、物語を持っています。それを音楽と映像、語りと写真という4つのメディアを秒単位で組み合わせて構成しているのが「地球のステージ」の骨格です。

桑山紀彦は案内役に過ぎません。

そのステージの中で、いかにして人の人生に触れ、そしてそれが自分の人生へ向かってかえってくるか。「では自分は何をなすべきか」。その問いはある種の前向きなエネルギーとなって見ている人の心に満ちていきます。

それを是非体験して頂くと共に、その構成とシンクロ率を全身で感じて頂けると幸いです。

桑山紀彦（「地球のステージ」案内役、心療内科医）



パネルディスカッション



片山 真理
アーティスト

1987年生まれ。9歳の時に、左足を大腿、右足を下腿から離断。2005年、群馬青年ビエンナーレ'05にて奨励賞(群馬県立近代美術館)の受賞をきっかけに制作をスタート。東京藝術大学大学院先端芸術表現科修了。アートアワードトーキョー丸の内2012 グランプリ受賞。現在、作品制作の他に音楽活動、モデル、講演など多岐に渡り表現の場を広げる。
<http://shell-kashime.com/>



小さなハイヒールを履く私



長棟 まお
詩人

1956年生まれ。詩集に『まお詩集 たみくさのふしぎ』(1994年)、『よりそう』(2010年)、戯曲に『ナム・フルサボウズ』(1985年)がある。2000年から自身のプロデュースによるメディアアートをはじめとする各種手作り作品と言葉のコラボレーション展覧会「ぶふふ」展を開いている。



吉村 昇洋
禅僧、臨床心理士

1977年生まれ。駒沢大学大学院にて仏教学修士を取得後、曹洞宗大本山永平寺にて修行生活を送り、現在、曹洞宗八屋山普門寺副住職。その一方で、臨床心理士資格を取得し、広島県下の病院にて臨床活動も行う。ネット上で精進料理blogを展開するほか、「食と仏教」に関する講演活動を積極的にに行い、『栄養と料理』『禅の友』各誌にてエッセイやレシピを連載中。
<http://www.zen-fumonji.com/>

